



「学校のあのこと、よく分からないよね」という声を保護者の皆様から聞くことがあります。

「学校って、そんな風に思いや願いを込めて仕事をしているのですね！」と、少しずつ皆様に学校を分かっていたいただくと嬉しい。そんな思いで「校長室だより」と題して、できるだけ噛み砕いてお伝えしていきたいと考えています。

今回はクラスに入っている支援員の話

朝の職員室で。日々、それぞれの支援スタッフとこのようなやり取りが行われています。

「A 支援スタッフさん、Oさんは、昨日学校に行くのを渋ったようです。ですので、今日はそばにいてください。何をやるか戸惑っていたら、時々、声をかけてあげてください。」

「B 支援スタッフさん、☆さんは、今日は朝遅れて学校に来ます。来たときに入りにくいかもしれないので教室のそばまでついて行って、落ち着くまで見守ってください。」

「C 支援スタッフさん、今日は◎さんではなく、□さんを見てください。□さんが、靴箱まで頑張ってきたのに、もしも泣いていたら寄り添って一緒に上まで上がってください。」

「D 支援スタッフさん、◇さんが、おへそを曲げて担任の先生の指示が聞けないときは、無理にやらせようとしたり、強い言葉をかけたりしないで、安全を確保して見ていてください。」

学校には、子どもに寄り添う様々な立場のスタッフがいます。支援員、介助員、ボランティア等、、、こういった職員は、常勤ではありません。勤務時間も半日であったり、5校時くらいまでであったりします。そのため、昨日の子どもの様子を共有し、的確に今日の子どもに寄り添い、動くことができるようにします。また、行った支援は、状況に応じてできる形（口頭やメモなど）で、担任と共有します。

もちろん、こういった毎朝の確認の前段階として、支援についての大きな方針は、担任の把握のもと、支援に関わる者で共通理解を図ります。「校内委員会」という場で、井荻小として方針の共有もします。

大切にしたいことは、子どもたちのことを担任が把握し、その上で個別に寄り添う支援者がいる、という状況です。特別支援教育アドバイザーの住谷先生や、特別支援教室専門員の岡田先生はチームの「橋渡し」となって支えています。

何より子どもたちが教室で過ごせるように。でも必要な時期には別室を使ったり、個別の支援をしたり。一人ひとりの子どもに充実感をもたせるための支援や、担任ができる工夫を考えて、皆で汗をかいています。

校長室だより

担任と協働しているスタッフについて、職種、ポジションなどを紹介します。

特別支援教育アドバイザー （週4日勤務） 住谷 陽子 学級担任、専科教員（算数・図工・音楽など）ではないため、学級単位の「授業」は受け持っていない。個別や複数での指導は担当する。また、保護者の相談にあたることもある。「担任との橋渡し」が重要な使命。
特別支援教室専門員 （週4日勤務） 岡田 実 「いおぎ教室」の運営をサポート。「いおぎ教室」担当の巡回指導教員や学級担任、保護者との「橋渡し」も重要な使命。
エデュケーションアシスタント （週4日勤務） 浅見 理奈 1学年から3学年までの特定の学年において、学級担任を補佐する。教室の掲示や環境を整えること、学習や清掃など担任業務を全般的に支える。
学習支援教員 （週2日、5校時まで勤務） 原 悦子 学習面で困り感を抱えている子どもたちに対して、担任と連携して個別的な指導や支援を行う。
通常学級支援員 （週5日5校時まで勤務、週4日昼過ぎまで勤務） 吉岡 悠紀、上田 優美 子どもたちの学校生活における困り感に応じて、安全管理、日常生活面での手助け、学習の支援を行う。
学校支援ボランティア （週2日～4日、基本的に午前勤務） 伊原 ふみ、中里 亮人、神原 由美子、他 子どもたちの学校生活における困り感に応じて、安全管理、日常生活面での手助け、授業における支援を行う。

困っていることは、一人ひとり違います。また、困り事がない子はいません。井荻小全体で、みんなが違いを認めて、互いから学び合える、そんな学校であり続けたいと考えています。